

[令和8年7月]

花火産業推進プロジェクト

個別事業進捗状況

～「大曲の花火」100回大会を見据えた

グローバルな花火産業基盤の確立～



■目次

事業軸A 伝統文化としての継承、文化的価値の向上

A-1 花火企画展示拡充事業	2
A-2 花火文化体験拡大事業	3
A-3 花火ふるさと教育事業	4
A-4 「大曲の花火」エンターテインメント事業	5
A-5 花火ファン拡大事業	6

事業軸B 国際的に認知され、海外からも訪れやすい環境の実現

B-1 国際花火競技大会出品事業	7
B-2 インバウンド観光環境整備事業	8
B-3 国際花火シンポジウム招致事業	9
B-4 「大曲の花火」外国語放送事業	10
B-5 大仙おもてなし隊養成講座事業	11

事業軸C 花火大会をはじめとする花火に関するコンテンツの充実

C-1 第100回記念大会開催事業	12
C-2 「大曲の花火」出品業者宿泊施設・大会管理運営施設建設活用事業	13
C-3 「大曲の花火」デジタル推進事業	14
C-4 花火おみやげ展開事業	15
C-5 クルーズ船花火普及事業	16

事業軸D 花火ブランドによる地域経済への波及拡大

D-1 体験型サービス提供事業者整備事業	17
D-2 イベントホームステイ普及事業	18
D-3 はなび・アムを核としたにぎわい創出事業	19
D-4 花火製造工程自動化・省力化事業	20

事業No.	花火企画展示拡充事業	事業主体	大仙市
A-1	花火伝統文化継承資料館における資料収集や企画展示を、これまでよりも質・量ともに充実させ、当地の花火文化をより多くの方に知っていただく。	記載担当	大仙市花火産業推進課 (花火伝統文化継承資料館)

■事業内容

- (1)花火映像アーカイブ、上映（D-3「はなび・アムを核としたにぎわい創出事業」と連携）
 全国花火競技大会を高精細な映像で記録・保存し、シアターや館内モニターで視聴機会を提供する。
- (2)本館企画展示の拡充
 本館で行う企画展示について、これまでは半年ごとの入れ替えだったが、令和6年度からは4か月ごとの入れ替えにし、回数を増やし、リピーターの来館回数増加を図る。

■事業計画

	実績		実績		計画		計画		計画	
	令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
実施内容	(1)花火映像アーカイブ、上映									
	4K映像				はなびシアター映像更新の方向性を検討				はなびシアター映像の更新	
	(2)本館企画展示の拡充									
	6月,10月,2月入れ替え									
事業費	花火映像アーカイブ	200千円	花火映像アーカイブ	200千円	花火映像アーカイブ	200千円	花火映像アーカイブ	200千円	花火映像アーカイブ	10,200千円
	花火資料企画展示	550千円	花火資料企画展示	500千円	花火資料企画展示	300千円	花火資料企画展示	550千円	花火資料企画展示	550千円
	合計	750千円	合計	700千円	合計	500千円	合計	750千円	合計	10,750千円
財源	一般財源	750千円	一般財源	700千円	一般財源	500千円	一般財源	750千円	一般財源	10,750千円
目標	花火伝統文化継承エリア(3、4階)見学者数	24,897 /40,000人	花火伝統文化継承エリア(3、4階)見学者数	33,998 /35,000人	花火伝統文化継承エリア(3、4階)見学者数	36,000人	花火伝統文化継承エリア(3、4階)見学者数	37,000人	花火伝統文化継承エリア(3、4階)見学者数	38,000人

■前年度実績と今後の計画

- (1)花火映像アーカイブ、上映（D-3「はなび・アムを核としたにぎわい創出事業」と連携）
 第97回全国花火競技大会の資料映像を4K映像で撮影し3階の大会提供ライブラリーで上映したほか、大阪関西万博で打ち上げられた大曲の花火の映像を4面マルチ映像として制作し、4階はなびシアターで上映した。今後の花火映像の更新については、全国花火競技大会100回記念大会に向け映像更新の方向性を検討する。
- (2)本館企画展示の拡充
 全国花火競技大会100回記念大会に向けた機運の醸成を図るとともに、来館者の満足度の高い展示を企画することで、来館者の増加につなげる。



「現代の名工」に選ばれた花火師たち(R7. 3月～6月)



つなぐ 伝える 大会提供花火(R7. 7月～10月)



プログラム・ポスターでたどる「大曲の花火」展(R7. 11月～R8. 2月)



次代を担う花火師たち(R8. 3月～6月)

事業No.	花火文化体験拡大事業	事業主体	株式会社花火創造企業
A-2	はなび・アム見学、花火工場見学、模擬花火玉づくり体験、プライベート花火打ち上げなどの花火文化体験を広くPRし、個別、団体旅行における利用に繋げる。	記載担当	株式会社花火創造企業

■事業内容

- (1)新規顧客の獲得、予約システムの導入
- セミナーや旅行商品商談会などの機会をとらえ、大手旅行業者等へのPRにより新規顧客を獲得する。また、予約システムを導入し、受け入れ体制の強化を図る。
- (2)修学旅行などの団体旅行及び外国人観光客の受入
- 学校や企業など団体旅行の受け入れを継続し、利用者の意見により内容の改善を図る。また、インバウンド客についても積極的に対応する。

■事業計画

	実績		実績		計画		計画		計画	
	令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
実施内容	(1)新規顧客の獲得、予約システムの導入									
	大手旅行者に 対しての提案				提案資料の刷新		予約システム 構築		予約システム 運用	
	(2)修学旅行などの団体旅行及び外国人観光客の受入									
	受け入れ、改善									
事業費	営業活動費 商談会への参加等50千円		営業活動費 商談会への参加等100千円		営業活動費 商談会への参加等100千円		営業活動費 商談会への参加等150千円		営業活動費 商談会への参加等200千円	
					多言語パンフレット製作100千円		予約システムの構築300千円			
	合計50千円		合計100千円		合計200千円		合計450千円		合計200千円	
財源	自主財源50千円		自主財源100千円		自主財源200千円		自主財源450千円		自主財源200千円	
目標	修学旅行受入数0 /3校		修学旅行受入数0 /3校		修学旅行受入数3校		修学旅行受入数5校		修学旅行受入数5校	
	その他団体旅行受入数7 /1団体		その他団体旅行受入数8 /5団体		その他団体旅行受入数5団体		その他団体旅行受入数8団体		その他団体旅行受入数10団体	

■前年度実績と今後の計画

- (1)新規顧客の獲得、予約システムの導入
- 新規顧客の獲得に向けた取組として、某大手旅行会社の全国の営業スタッフ（教育旅行担当）を対象に、花火創造企業の現地見学、模型玉づくり体験及び意見交換を実施した。実際に現地を訪れ、花火に関するものづくりや地域資源の魅力を体感してもらうことで、教育旅行素材としての理解促進と今後の商品造成につながる関係構築を図った
- (2)修学旅行などの団体旅行及び外国人観光客の受入
- 修学旅行については、2件の問い合わせがあったものの、いずれも夏季の日程で繁忙期と重なることから、受入を見送った。一方で、「花火のまち大仙」への修学旅行誘致は引き続き重要であると考えており、今後も旅行会社等への働きかけを継続していきたい。
- 団体旅行及び外国人観光客の受入については、山形県のインバウンド向け旅行会社を通じて外国人観光客の受入を行った。当該案件は今年度も継続して予約を受けており、継続的な誘客につながる成果が見られている。

令和7年度受入実績

日付	受入団体	人数	内容
令和 7年 7月 2日	宮古市教育委員会視察	9名	見学
令和 7年 7月 2日	大手旅行代理店研修	12名	見学・説明会
令和 7年 7月10日	藤木地区町内会連絡協議会	10名	見学
令和 7年 8月 6日	大手旅行会社教育旅行視察研修	15名	見学・説明会
令和 7年10月14日	移住希望者	2名	見学・模擬玉
令和 7年10月22日	栗原市危険物安全協会	13名	見学
令和 7年11月22日	ツナガル株式会社（香港から）	8名	見学・模型玉・講話
令和 8年 3月28日	花火文化体験プログラム（大仙市）	28名	見学・模型玉・線香花火
合計		97名	

事業No.	花火ふるさと教育事業	事業主体	大仙市
A-3	子どもたちに花火文化を体験する機会を提供し、花火を郷土の文化として認識してもらい、地域の将来の担い手としてのふるさと愛を育む	記載担当	大仙市花火産業推進課

■事業内容

- (1)小学生秋の章観覧
 市内の小学生を対象に、大曲の花火－秋の章－を無料で観覧することができる機会を提供する。
- (2)小学生花火文化体験
 市内の小学生を対象に、はなび・アム見学、花火工場見学、模擬玉づくり、線香花火づくりなどを体験することができる機会を提供する。

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
スケジュール	(1)小学生秋の章観覧 対象:3,6年生		対象:3年生		
		(2)小学生花火文化体験 対象:4～6年生			
事業費	小学生秋の章観覧 876千円	小学生秋の章観覧 1,008千円	小学生秋の章観覧 840千円	小学生秋の章観覧 840千円	小学生秋の章観覧 840千円
		小学生花火文化体験 221千円	小学生花火文化体験 248千円	小学生花火文化体験 248千円	小学生花火文化体験 248千円
	合計 876千円	合計 1,229千円	合計 1,088千円	合計 1,088千円	合計 1,088千円
財源	自主財源 876千円	自主財源 1,214千円	自主財源 1,073千円	自主財源 1,073千円	自主財源 1,073千円
		花火文化体験参加料 15千円	花火文化体験参加料 15千円	花火文化体験参加料 15千円	花火文化体験参加料 15千円
目標	小学生秋の章観覧 申込率 14.7 /16%	小学生秋の章観覧 申込率 20.4 /15%	小学生秋の章観覧 申込率 20%	小学生秋の章観覧 申込率 20%	小学生秋の章観覧 申込率 20%

■前年度実績と今後の計画

- (1)小学生秋の章観覧
 大仙市内の児童の家庭に学校経由で案内を配布し、観覧を希望した児童144人とその保護者、合計288人に無償で秋の章の観覧機会を提供した。地域の文化を体験する機会の創出に繋がっているため、今後も継続する。なお、令和8年度からは観覧要望の多い3年生のみを対象とする。
- (2)小学生花火文化体験
 11月1日に開催する予定としていたが、ツキノワグマの出没多発により3月28日に変更して行った。子どもと保護者合わせて28人が参加し、はなび・アム見学、花火工場見学、模擬玉づくり、線香花火づくりを通じて花火文化への理解を深めていただくことができた。今後も取り組みを継続する。



R7小学生花火文化体験アンケート結果（人）

	子ども	保護者
満足	10	14
やや満足	4	0
どちらでもない	0	0
やや不満足	0	0
不満足	0	0

事業No.	「大曲の花火」エンターテインメント事業	事業主体	TMO大曲
A-4	花火を題材としてヒット曲、ドラマを制作または制作の協力をし、最終的には花火を題材とした映画製作へ導き、監修協力を「大曲の花火」が担う。	記載担当	F Mはなび

■事業内容

- (1)「花火の思い出」作文コンクール
- 花火まつわるエピソード、思い出を公募して放送等で発表する
- (2)楽曲制作発表
- 「花火の思い出」を題材とした楽曲を制作し発表する。もしくはその協力をする。
- (3)ラジオドラマ制作放送、映画化
- 「花火の思い出」をラジオドラマ化し放送した上で、それらのエピソードを中心に映画「花火物語」（仮題）を製作する。

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)「花火の思い出」作文コンクール		開催		
	(2)楽曲制作発表			制作、発表	
	(3)ラジオドラマ制作放送、映画化			映画制作	映画発表
	映画制作準備		ラジオドラマ放送		
事業費	作文コンクール開催費 30千円		作文コンクール開催費 80千円	作文コンクール開催費 80千円	作文コンクール開催費 80千円
				映画制作費 20,000千円	映画制作費 20,000千円
				楽曲制作費 200千円	
	合計 30千円	合計	合計 80千円	合計 20,280千円	合計 20,080千円
財源	F Mはなび自主財源 30千円		放送広告収入 80千円	放送広告収入 2,210千円	放送広告収入 2,010千円
				国補助財源 18,070千円	国補助財源 18,070千円
目標	放送広告収入 0 /100千円	放送広告収入 0 /100千円	放送広告収入 600千円	放送広告収入 600千円	放送広告収入 600千円
				楽曲販売枚数 500枚	楽曲販売枚数 1,000枚

■前年度実績と今後の計画

- (1)「花火の思い出」作文コンクール
- 作業進行が遅れ、企画が実施できなかった。令和8年度は募集形態を工夫し、再度実施を目指す。
- (2)楽曲制作発表
- 当初、令和8年度に制作と発表を行う計画としていたが、「花火の思い出」作文コンクールの内容と連動させるため、その翌年である令和9年度に実施を延期した。
- (3)ラジオドラマ制作放送、映画化
- 令和7年度は、映画制作について地元出身映画プロデューサー鈴木一美氏に意見を伺った。令和8年度は、(2)を踏まえ、ラジオドラマ放送の実現を目指す。

事業No.	花火ファン拡大事業	事業主体	大曲花火倶楽部
A-5	花火に関する基本的な情報やより楽しめる鑑賞のしかたなどを広める活動をととして、花火ファンの拡大を目指す。	記載担当	大曲花火倶楽部

■事業内容

- (1)「大曲の花火」の来訪者を対象にした花火セミナーの開催
 全国花火競技大会「大曲の花火」に訪れた観覧客に、日本花火鑑賞士会協力のもと、花火鑑賞士が花火の基礎知識や大会の見どころなどを解説する。
- (2)年間をとおした啓発活動の実施
 花火鑑賞士認定試験、花火鑑賞士のつどい、公開定例会、各種メディアを活用したPR、市内外の各種団体への出前講座を実施する。

■事業計画

	実績		実績		計画		計画		計画	
	令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
実施内容	(1)「大曲の花火」の来訪者を対象にした花火セミナーの開催									
	花火セミナー									
	(2)年間をととした啓発活動の実施									
	花火鑑賞士試験									
	FMIはなび番組									
事業費	花火鑑賞士試験	773千円	花火鑑賞士試験	835千円	花火鑑賞士試験	800千円	花火鑑賞士試験	800千円	花火鑑賞士試験	800千円
	公開定例会	105千円	公開定例会	112千円	公開定例会	150千円	公開定例会	150千円	公開定例会	150千円
					花火鑑賞士のつどい	600千円	花火鑑賞士のつどい	600千円	花火鑑賞士のつどい	600千円
	合計	878千円	合計	947千円	合計	1,550千円	合計	1,550千円	合計	1,550千円
財源目標	自主財源	878千円	自主財源	947千円	自主財源	1,550千円	自主財源	1,550千円	自主財源	1,550千円
	花火鑑賞士総数	1,554 /1,551人	花火鑑賞士総数	1,652 /1,631人	花火鑑賞士総数	1,711人	花火鑑賞士総数	1,791人	花火鑑賞士総数	1,871人

■前年度実績と今後の計画

- (1)「大曲の花火」の来訪者を対象にした花火セミナーの開催
 全国花火競技大会「大曲の花火」開催日、市内3会場で各3回セミナーを開催した。花火通り商店街や大型バス駐車場で開催を呼びかけるチラシを配布した効果もあり、全体として来場者の増加につながった。
 【当日の来場者数】 ※（ ）は令和6年の来場者数
 はなび・アム：258人（206人）、大曲技術専門学校：260人（275人）、花火庵：248人（213人）



花火庵会場



大曲技術専門学校会場

- (2)年間をとおした啓発活動の実施
 21回目となる花火鑑賞士認定試験を実施。定員を超える申し込みがあり、98名が新たに花火鑑賞士となった。
 会員の活動として、FMIはなびの花火専門番組「花火の星」のパーソナリティ、春夏秋の大会中継解説、全国各地での講演や花火大会審査員なども担っている。今後もさまざまな機会を捉えて「大曲の花火」のPRに努める。

事業No.	国際花火競技大会出品事業	事業主体	「大曲の花火」実行委員会
B-1	大仙産の花火玉と地元花火業者の打上技術を世界に披露し、観光客誘致と「大曲の花火」の海外進出の足がかりとする。	記載担当	大曲商工会議所

■事業内容

- (1) モントリオール国際花火競技大会への出品
令和6年モントリオール国際花火競技大会での銅賞を足がかりに「大曲の花火」の国際的知名度の向上を図るとともに、インバウンド誘客の推進や「大曲の花火」ならびに大仙産花火玉の海外進出を促進するため技術力の向上を図る。
- (2) その他国際花火競技大会への出品検討
さまざまな国で開催される花火競技大会の情報を収集し、出品を目指す。

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1) モントリオール国際花火競技大会への出品 出品(7月)	再出品に向けてのPR	出品		
		(2) その他国際花火競技大会への出品検討 情報収集・検討 大阪・関西万博へ出品			
事業費	花火関連経費 31,692千円	花火関連経費 11,734千円			
	旅費等 1,031千円				
	合計 32,723千円	合計 11,734千円	合計	合計	合計
財源	主催者負担金 10,957千円	主催者負担金 6,000千円			
	会議所自主財源 11,766千円	会議所自主財源 2,734千円			
	大仙市負担金 10,000千円	大仙市負担金 3,000千円			
目標	競技大会の成績 銅賞、特別賞/金賞		競技大会の成績	金賞	

■前年度実績と今後の計画

- (1) モントリオール国際花火競技大会への出品
令和7年度は、4月に中国で開催された第19回国際花火シンポジウム会場にて、モントリオール国際花火競技大会の主催者とお会いし、令和9年の再チャレンジの意向を伝えた。今後も招待していただけるように主催者へのPRを継続する。
- (2) その他国際花火競技大会への出品検討
令和7年度は、6月28日(土)に大阪・関西万博会場で開催された「Japan Fireworks Expo」の一環として「大曲の花火」を披露する機会を得た。これにより、国内外の多くの来場者に大曲の花火を紹介する貴重な場となり、国際的な発信の機会を確保することができた。



記録的な約18万人の来場者となった大阪・関西万博会場の夜空を彩り、「大曲の花火」をPRした

事業No.	インバウンド観光環境整備事業	事業主体	「大曲の花火」実行委員会
B-2	公式サイト多言語化、海外からのチケット購入方法確立、スタッフの外国人対応スキルアップなどによりインバウンド受け入れ環境を整備し、交流人口の増加を図る。	記載担当	大曲商工会議所

■事業内容

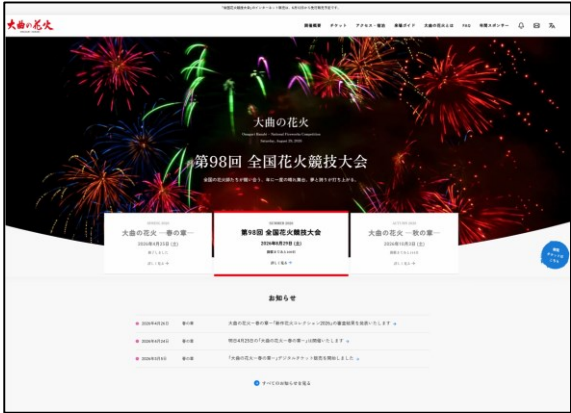
- (1)公式Webサイトリニューアル
「大曲の花火」公式Webサイトを、より情報を取得しやすいビジュアル・構成となるようにリニューアルする。多言語化対応を実現し、インバウンド客をつなぐ革新的なデジタル環境の構築を図る。また、大曲の花火公式スマホアプリの開発、継続的な改善・機能拡充を行い、恒久的な運用体制を構築する。情報の提供をさらに充実させ、国内外の観客がより便利に利用できる環境を整備する。
- (2)海外からの観覧チケット購入システム構築（公式アプリ追加）
「大曲の花火」をよりグローバルにするための基盤となる公式スマホアプリが本格的に移動後、よりスムーズで信頼性の高いチケット購入環境を整備し、国内外の観客が快適に利用できる仕組みを構築する。

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)公式サイトリニューアル リニューアル検証 コンテンツ改訂 リニューアル				
	(2)海外からの観覧チケット購入システム構築 公式アプリ導入 運用、改善 バージョンアップ プロモーション推進				
事業費	公式アプリ製作費 5,000千円	公式アプリ及びWebサイト改修 10,000千円	公式アプリ及びWebサイト改修 8,000千円	整備費・企画費 5,000千円	整備費・企画費 5,000千円
財源	会議所 自主財源 5,000千円	会議所 自主財源 10,000千円	会議所 自主財源 8,000千円	会議所 自主財源 5,000千円	会議所 自主財源 5,000千円
目標		公式サイト海外からのアクセス数 26,230 /20,000	公式サイト海外からのアクセス数 28,000	公式サイト海外からのアクセス数 30,000	公式サイト海外からのアクセス数 35,000

■前年度実績と今後の計画

- (1)公式サイトリニューアル
令和7年度は、グローバル展開を見据えた情報発信基盤の強化を目的として、公式サイトの全面リニューアルを実施した。新サイトでは、日本語・英語のマルチランゲージ対応を導入し、海外ユーザーを含む幅広い利用者に対応できる構成とした。また、CMS（コンテンツ管理システム）を導入したことで、運用側での迅速かつ効率的な情報更新が可能となり、継続的な情報発信体制が整備され、リニューアルによる利用者利便性の向上が確認された（海外からのアクセス数 リニューアル前：1,779件／月→リニューアル後：3,025件／月）。また、公式アプリとの連携強化として、2次元コード発行機能を新たに実装し、アプリ上でデジタルチケットを発行できる仕組みを構築した。これにより、イベント等における入場管理の効率化・円滑化が実現した。
今後は、公式サイト・アプリのさらなる拡張多言語対応の拡大、アクセス数増加に向けたSEO（検索エンジン最適化）強化・SNS連携を進める。
- (2)海外からの観覧チケット購入システム構築
令和7年度は、海外からの観客が円滑にチケットを購入できる環境整備を目的として、公式アプリを基盤とした恒久的な運用体制を構築した。
今後はその運用体制をベースに、多言語対応や決済手段の拡充、不正購入対策、セキュリティ強化など、海外ユーザーの利用を想定した機能改善を継続的に実施し、国際的な利用者の受け入れ体制を強化していくことを目指す。



リニューアルした公式サイト

サイトとアプリの基盤整備は完了し、グローバル対応の土台が整った。

今後は、海外ユーザーの利便性向上と、運用効率化・データ活用を軸に、継続的な拡張フェーズへ移行する。

事業No.	国際花火シンポジウム招致事業	事業主体	「大曲の花火」実行委員会
B-3	令和10年をターゲットに大仙市で国際花火シンポジウムを再度、招致開催することで、世界的な知名度のさらなる向上及び第100回大会記念イヤーの機運を高める。	記載担当	大曲商工会議所、大仙市

■事業内容

- (1)招致活動
- 令和10年の大仙市でのISF開催に向けて、招致活動を行う。
- (2)開催準備、運営
- 現地実行委員会を立ち上げ、国際本部と連携しながら受け入れの準備を行う。開催期間中も参加者の滞在がより良いものとなり、今後のインバウンド観光の増加に繋がるよう、対応する。

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)招致活動 開催申込対応、PR活動	19thISFでの招致活動	20thISFでの招致活動		
		(2)開催準備、運営 情報収集、方針検討	実行委員会立ち上げ	開催準備 視察受入	21stISF開催
事業費		旅費、登録料等 2,110千円 プレゼン映像作成費 363千円 合計 2,473千円	旅費、登録料等 12,274千円 プレゼン映像作成費 500千円 合計 12,774千円	未定 合計 未定	未定 合計 未定
財源		会議所自主財源 2,473千円	会議所自主財源 5,500千円 市一般財源 7,274千円	未定	未定
目標			招致の成否 招致決定		海外からのISF参加登録者数 300人

■前年度実績と今後の計画

- (1)招致活動
- 令和7年度は、4月に第19回国際花火シンポジウム（中国、醴陵市）に参加した。「国際花火シンポジウムにより促進された『大曲の花火』の国際化と花火産業発展のための多様な取り組み」という表題で齋藤会頭が事例発表を行い、シンポジウムを通じて得られた成果と、地域産業のさらなる発展に向けた具体的なアプローチを報告した。
- 令和8年度は、10月に開催される第20回国際花火シンポジウム（スペイン、バレンシア）に参加し、招致活動を行う。期間中はトレードショーのブースを出展し、大曲の花火及び大仙市のPRを行うことで、招致の実現及び大仙市で開催した際の参加者増に繋げる。
- (2)開催準備、運営
- 国際花火シンポジウム協会の日本担当理事である東京大学新井名誉教授からその都度情報をいただき、協会が求めるシンポジウムの在り方を念頭に置きながら、当地での開催場所や手法について継続的に検討を行う。令和8年10月の招致正式決定後、日本委員会及び現地実行委員会を立ち上げることとしている。



第19回国際花火シンポジウム（中国）での様子

事業No.	「大曲の花火」外国語放送事業	事業主体	TMO大曲
B-4	「大曲の花火」開催時に行っている放送を外国語でも制作し、インターネットで放送することで、外国人客の利便性を高める。	記載担当	FMはなび

■事業内容

- (1)外国語放送担当者選出育成
- 英語、韓国語、中国語などの外国語での放送を担当する人材を選出し、育成する。
- (2)インフォメーション放送
- FMはなびで「大曲の花火」観覧席や周辺案内などのインフォメーションを外国語で放送する
- (3)実況中継放送
- FMはなびもしくはネット放送で「大曲の花火」実況中継を外国語で放送する

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)外国語放送担当者選出育成 選出(英語)	選出(英語)	選出(英語) 育成(英語) →	選出(韓中) 育成(韓中) →	
	(2)インフォメーション放送 試験放送		本格放送		
	(3)実況中継放送		仕組み検討、試験放送 →	本格放送	
事業費	番組制作費 631千円	番組制作費 631千円	番組制作費 900千円	番組制作費 1,050千円	番組制作費 1,750千円
			人件費 1,200千円	人件費 1,300千円	人件費 2,400千円
				育成費 50千円	育成費 50千円
	合計 631千円	合計 631千円	合計 2,100千円	合計 2,400千円	合計 4,200千円
財源	広告及び売上収入 631千円	広告及び売上収入 631千円	広告及び売上収入 800千円	広告及び売上収入 900千円	広告及び売上収入 2,600千円
			国補助財源 1,300千円	国補助財源 1,500千円	国補助財源 1,600千円
目標	外国語放送担当者 1 /1名 アプリ放送アクセス数 736 /1507人	外国語放送担当者 1 /1名 アプリ放送アクセス数 955 /1,100人	外国語放送担当者 1名 アプリ放送アクセス数 1,100人	外国語放送担当者 2名 アプリ放送アクセス数 1,100人	外国語放送担当者 2名 アプリ放送アクセス数 1,100人

■前年度実績と今後の計画

- (1)外国語放送担当者選出育成
- 令和7年度は、6年度にボランティアとして無償で英語アナウンス担当してもらった佐々木千秋さん（ECC講師）に、引き続き担当していただいた。令和8年度は、市内在住の外国人スピーカーも選出し、育成したい。
- (2)インフォメーション放送
- 放送で使用した音声を、花火大会関連会場（花火ウィークなど）で流したところ、昨年同様アジア人観光客が耳を傾けていたのは確認できたが、その後の展開としては特になかったため、やはりラジオもしくはネットでの放送が必要と感じた。
- (3)実況中継放送
- 現場の実況放送（日本語）と並走する為の、ネットワークの仕組みはまだ見つからないため、引き続き研究構築したい。



外国語放送を担当していただいた佐々木千秋さん

事業No.	大仙おもてなし隊養成講座事業	事業主体	TMO大曲
B-5	増加しているインバウンド客に対応するため、英会話や大仙市の地域・文化について学ぶ講座を開催し、オール大仙でのおもてなしを実現する。	記載担当	ペアーレ大仙

■事業内容

(1)国際花火シンポジウム(ISF)時のおもてなし隊

ISF会場や市街地などに訪れる多くの外国人関係者への円滑な案内対応ができるように英会話や大仙市の地域・文化等について学ぶおもてなし隊養成講座を開設し、そこで得た知識技能を活用しながらオール大仙でのおもてなしを実現する。

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1) ISF時のおもてなし隊 指導者の選定、打診 前回ISF協力者への情報提供	ISF時、外国人からの予想リクエスト集約	ISF時、予想課題への対応準備	養成講座 9～3月	ISF時 参加者案内
事業費				おもてなし隊養成講座実施経費 720千円	ISF時参加者案内経費 60千円
財源				ISF現地実行委員会委託料 720千円	ISF現地実行委員会経費 60千円
目標				おもてなし隊講座受講者数 30人	おもてなし隊人数(研修講師を含む) 35人

■前年度実績と今後の計画

(1)国際花火シンポジウム(ISF)時のおもてなし隊

前回ISFボランティア活動中、外国人参加者からの予想外のリクエストに戸惑うことが少なくなかった。例えば、「大きなトランク複数個を、大曲駅近くで22時まで預かってほしい」「ISF会場から強首地区の宿に、できるだけ安く(タクシーは高額で不可)行きたい」等々、会話が成立するだけでは解決できない課題も多く、令和7年度はその洗い出しを行った。

令和8年度は、前述の課題等に対し、事前に関係機関に働きかけ解決しておきたいこと、ISF当日の対応時にマニュアルが必要と思われることをリストアップする。関係機関への働きかけは、随時時宜を得て。マニュアル骨子は、養成講座の事前に作成し、詳細作成は講座時に参加者全員で行う。



平成29年の国際花火シンポジウムで活躍したボランティアの皆さん

事業No.	第100回記念大会開催事業	事業主体	「大曲の花火」実行委員会
C-1	令和10年の第100回大会を日本最高峰の花火競技大会の節目としてふさわしい大会とし、世界に誇る伝統文化「大曲の花火」の存在感を国内外に示す。	記載担当	大曲商工会議所

- 事業内容

(1)第100回大会準備、運営

実行委員会において、記念すべき大会としてふさわしい内容となるように、打上会場や観覧会場、交通、駐車場などさまざまな場面における改善サイクルをこれまで以上に推進する。「大曲の花火」の歴史の節目とし、世界にその存在感を示すため、「第100回記念大会」を単なる一過性のイベントではなく、春・夏・秋の3部構成で記念イヤーを盛り上げるべく年間を通した「トータル記念イヤー」として位置づけ、事業を推進する。

(2)事業を支える基盤整備と地域活性化

花火師が最大限の技術を発揮できる環境を整えるとともに、観客にとっても安全で快適な大会運営を実現する。100回大会を契機として、地域の観光資源としての価値向上や来訪者増加による地域活性化にもつながる基盤整備を進めていく。

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)第100回大会準備、運営				春夏秋トータル記念イヤー
	企画検討 準備 アップデート 100回大会実施 大曲の花火師カード作成・販売 会場整備				
事業費		大曲の花火師カード作成費 1,200千円	大曲の花火師カード作成費 1,200千円	大曲の花火師カード作成費 1,200千円	大曲の花火師カード作成費 1,200千円
			会議・調査 500千円	会議・調査 1,000千円	100回大会関連経費 600,000千円
			打上会場整備 5,000千円	打上会場整備 10,000千円	
財源目標		会議所自主財源 1,200千円	会議所自主財源 6,700千円	会議所自主財源 12,200千円	会議所自主財源 601,200千円

- 前年度実績と今後の計画

(1)第100回大会準備、運営

令和7年度は、第100回という節目の大会に向けて、花火師への敬意と感謝を広く共有し、花火文化の価値を再認識する機運を高めることを目的として、「大曲の花火師カード」（全30種類）を制作した。各花火師の紹介や技術的特徴、これまでの実績などのPR情報を掲載することで、花火師個々の魅力に触れることができる新たなコミュニケーションツールとして活用し、花火そのものだけでなく、花火を創り上げる花火師への理解と関心を深める契機となった。実際の購入者からの反応も好評であり、大会の新たな価値創出に繋がった。

この成果を踏まえ、令和8年度は「花火師カード第2弾」の制作・展開を行い、さらなるファン層の拡大と花火文化の発信強化を図る。

なお、現時点でのトータル記念イヤー各大会コンセプト案は以下のとおり。

【春の章】世界と日本の技術が交差する「国際交流の場」

「世界の花火・日本の花火」として国内外の技術が結集するプログラムを実施し、同時期に開催が予定されている国際花火シンポジウムのために当地を訪れる世界各国の花火関係者との技術交流と「大曲の花火」の国際的ブランド価値の確立を図る。

【全国花火競技大会】第100回全国花火競技大会「歴史的祭典」

日本最高峰の花火競技大会として、100回を祝う特別な演出を実施し、国内外の観客に感動を提供する。

【秋の章】グランドチャンピオン大会「至高の競演」

過去の内閣総理大臣賞受賞者が一堂に会する特別な打上を実施し、記念イヤーのフィナーレを最高水準の演出で締めくくる。

(2)事業を支える基盤整備と地域活性化

打上会場は大会運営の中核を担うエリアであり、花火の品質・安全性・観客満足度を左右する最も重要な要素であることから、2019年までの4年間で整備工事を行っている。しかし、経年により再び環境が悪化してきているため、100回大会に向けては打上会場の抜本的な整備を重点的に推進する。



大曲の花火師カード第2弾（スナック付きカード例）

事業No.	「大曲の花火」出品業者宿泊施設・大会管理運営施設建設活用事業	事業主体	大曲商工会議所
C-2	花火師が自ら打ち上げる競技大会である全国花火競技大会の開催を今後も継続し、大会管理運営の集約強化を図るための施設を建設し、完成後はその活用を推進する。	記載担当	大曲商工会議所

■事業内容

- (1) 施設建設
- 鉄鋼造地上6階建、50部屋で最大156名が宿泊可能な施設を建設する。
- (2) 施設完成後の活用
- 出品業者宿泊施設・大会管理運営施設として活用すると共に、それ以外の時期は一般の宿泊者も受け入れ、地域経済活性化を図る。

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)施設建設 建設工事				
		(2)施設完成後の活用 4月プレオープン 7月本格稼働 花火大会での活用、一般宿泊客の受け入れ			
事業費	工事費等 1,150,000千円	工事費等 22,000千円	工事費等 1,000千円	償還金等 150,000千円	償還金等 150,000千円
		償還金等 194,346千円	償還金等 189,437千円		
財源	会議所 自主財源 150,000千円	会議所 自主財源 216,346千円	会議所 自主財源 190,437千円	会議所 自主財源 150,000千円	会議所 自主財源 150,000千円
	借入金 1,000,000千円				
目標	工事進捗率 100 /100%		客室稼働率 80%	客室稼働率 80%	客室稼働率 80%

■前年度実績と今後の計画

- (1) 施設建設
- R7 2月28日 完成検査

3月 5日 建物引渡し

4月12日 竣工式
- 

- (2) 施設完成後の活用
- 令和7年4月に完成内覧会、試泊会を経てプレオープンし、7月から本格的に稼働している。「大曲の花火」3大会時には、関係者の宿泊や大会本部、審査委員席など、建設の趣旨であった役割を担い、花火大会の運営を支える中核的拠点として活用することができた。それ以外の期間においても、特色ある宿泊施設として多くの観光客やビジネス客の利用があった。令和7年度の客室稼働率としては、約70%であった。（秋田県全体のビジネスホテル平均値は約67.8%）

今後は、地域経済の活性化に寄与する多目的施設として位置づけ、花火文化の発信拠点として、プライベート花火など、花火に関連するイベントの企画・開催を積極的に推進する。これにより、年間を通じて施設の稼働率向上を図り、地域内外からの来訪者増加につなげる。さらに、施設の特徴である6階眺望レストランを活用した会合・交流イベントの誘致を進め、特別な景観を活かした付加価値の高いサービス提供を目指す。加えて、旅行業者との連携を強化し、プライベート花火を組み込んだ旅行商品造成を推進することで、新たな観光需要の創出と地域経済への波及効果を高める。これらの取り組みを通じて、施設を大会時のみならず、年間を通じて活用される地域の新たな魅力拠点として育成し、持続的な地域活性化につなげていく。
-
-
- お宿Onn 6階眺望レストラン
- 13

事業No.	「大曲の花火」デジタル推進事業	事業主体	「大曲の花火」実行委員会
C-3	デジタル技術を活用し、より多様なターゲットに向けての新たな情報発信や、実際に来訪する方の利便性向上を図る。	記載担当	大仙市花火産業推進課

■事業内容

- (1)チャットボット導入
- 「大曲の花火」に関する問い合わせ対応にチャットボットを活用し、より円滑な案内及びスタッフの労力削減を図る。
- (2)デジタルマップ導入
- 紙媒体での案内マップだけでなく、Googleマップなどのサービスを活用し、より利便性や精度の高い情報を提供する。
- (3)駐車場シェアリングサービスによる民間駐車場の拡大
- インターネットを活用した駐車場シェアリングサービスについて、企業や一般家庭向けにPRすることで、民間駐車場の拡大を図る。

■事業実績、計画

	実績	実績	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)チャットボット導入 導入・運用	運用・改善			
	(2)デジタルマップ導入 導入・運用	運用・改善			
	(3)駐車場シェアリングサービスによる民間駐車場の拡大 PR				
事業費	チャットボット経費 110千円	チャットボット経費 132千円			
財源	「大曲の花火」実行委員会委託料 110千円	「大曲の花火」実行委員会委託料 132千円			
目標	チャットボット対応件数 22,805 /50件	チャットボット対応件数 6,193 /25,000件	駐車場シェアリングサービス民間台数 600台	駐車場シェアリングサービス民間台数 700台	駐車場シェアリングサービス民間台数 800台
	駐車場シェアリングサービス民間台数 419 /250台	駐車場シェアリングサービス民間台数 523 /500台			

■前年度実績と今後の計画

- (1)チャットボット導入
- 2年間、大曲商工会議所及び大仙市のWebサイトに導入してみたが、目的であった電話での問い合わせ件数の減少には繋がらなかったため、令和8年度以降は継続しないこととした。
- (2)デジタルマップ導入
- 令和6年度に作成したマップに、喫煙場所の情報を追加した。今後も多様な情報を更新する。
- (3)駐車場シェアリングサービスによる民間駐車場の拡大
- 目標を超える台数がインターネットに掲載されたが、駐車場の箇所数としては1減少した。箇所数の増加に繋がるように、今後もサービス提供会社と連携し、取り組みを進める。



デジタルマップ

事業No.	花火おみやげ展開事業	事業主体	大仙市観光物産協会
C-4	これまでにない定番花火お土産品の開発・販売により、当該商品や関連する花火商品の売り上げによる経済効果、PR効果を狙う。	記載担当	大仙市観光物産協会

■事業内容

(1)オリジナル花火商品の開発・販売
 今後の花火大会需要の増加を見据え、今までに無いお土産品となる花火グッズの開発・販売を行うことにより地域への経済効果を高める。

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	
実施内容	(1)オリジナル花火商品の開発・販売					
	商品開発・販売					
		販促				
事業費	商品開発	100千円	商品開発	100千円	商品開発	100千円
			商品販促	100千円	商品販促	100千円
	合計	100千円	合計	200千円	合計	200千円
財源	自主財源	100千円	自主財源	200千円	自主財源	200千円
目標		オリジナル商品の開発 0 / 1商品以上	オリジナル商品の開発 1商品以上	オリジナル商品の開発 1商品以上	オリジナル商品の開発 1商品以上	
			オリジナル商品売上 300千円	オリジナル商品売上 300千円	オリジナル商品売上 300千円	

■前年度実績と今後の計画

(1)オリジナル花火商品の開発・販売
 令和7年度は、令和6年度に開発した「大曲の花火」ロゴトートバッグを使用し、花火観覧グッズを入れた福袋を販売し、新たな販路を広げた。また、トートバッグにステンシルで花火の絵柄を付け加えるワークショップを実施し、世界に一つだけのオリジナルのおみやげ品として販売した。
 福袋に関しては、夏の花火大会に売上が伸び、今年度は中身をさらに充実させ、お土産品としてアピールしていきたい。ステンシルトートは今年度も継続し、「大曲の花火」を訪れた観光客の思い出に残るような今までにないお土産品を目指したい。
 【令和7年度販売実績】 トートバッグ単体売上額 71,500円(@500円×143)
 花火観覧グッズ入りトートバッグ売上額 31,000円(@1,000円×31)



令和7年度に販売した福袋
 (花火観覧グッズ入り
 トートバッグ)



トートバックを活用したステンシルワークショップ
 (ステンシルシート制作協力:大曲技術専門学校)

事業No.	クルーズ船花火普及事業	事業主体	大曲の花火協同組合
C-5	クルーズ船寄港時の花火観覧について、より多くのツアーにおいてコンテンツとして取り入れられるように、ツアー催行主等へのPRを行う。	記載担当	大曲の花火協同組合

■事業内容

- (1)新たなクルーズ船打上機会の創出を目指したPR
 県主催の商談会において、旅行会社やクルーズ船会社へのPRを行うことで、新たな打上機会を創出する。
- (2)秋田港及び大仙市と有縁交流を結んでいる地域でのクルーズ船花火打上げ
 秋田港や宮古港、宮崎港においてクルーズ船寄港時の花火打ち上げを行い、「大曲の花火」をPRすることで全国花火競技大会をはじめとした花火イベントへの誘客を図る。

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)新たなクルーズ船打上機会の創出を目指したPR				
	クルーズ船会社への商談				
	県主催の商談会への参加				
	(2)秋田港及び大仙市と有縁交流を結んでいる地域でのクルーズ船花火打上げ				
	花火打ち上げ				
事業費	営業活動費200千円	営業活動費200千円	営業活動費200千円	営業活動費200千円	営業活動費200千円
財源	自主財源200千円	自主財源200千円	自主財源200千円	自主財源200千円	自主財源200千円
目標	打上げ回数5 /4回	打上げ回数2 /2回	打上げ回数2回	打上げ回数3回	打上げ回数3回

■前年度実績と今後の計画

- (1)新たなクルーズ船打上機会の創出を目指したPR
 昨年度、宮古港でのクルーズ船花火をきっかけに、株式会社商船三井より直接打上げの依頼があった。今後は、自治体だけでなく船会社に対しても積極的にアプローチを行い、打上げの機会を広げていきたい。
- (2)秋田港及び大仙市と有縁交流を結んでいる地域でのクルーズ船花火打上げ
 秋田港での打上げについては、環境上の制約により実施が不可能となったため、今後は能代港や船川港での打上げを提案していく。
 また、昨年度に引き続き大仙市の友好交流都市である岩手県宮古市より、クルーズ船寄港時の花火打上げの依頼を受け実施した。

令和7年打上実績

日付	打上場所	クルーズ船名
令和 7年 8月 3日	宮古港（岩手県宮古市）	帆船「海王丸」
令和 7年10月29日	宮古港（岩手県宮古市）	日本丸

事業No.	体験型サービス提供事業者整備事業 ～交流人口拡大事業～	事業主体	大仙市商工会
D-1	酒蔵や農業体験など、市内に点在する体験型サービスを提供する事業者を結びつけ、統一ツールなどを活用しながら誘客を行うことで、花火大会時等の滞在時間延長に繋げる。	記載担当	大仙市商工会

■事業内容

- (1) 体験型等サービスの確立
- 市内事業者（商工会員以外を含む）の中から、既存の体験型等サービスを提供している事業者を洗い出し、体験型観光コンテンツとなり得るサービスの選定を行う。
- 選定したコンテンツ候補が持つ潜在的な魅力や商品としての価値、将来性等を評価するため、専門家等によるモニタリング調査を実施する。
- (2) 事業PR活動
- 誘客促進や観光消費の拡大を図るため、既存の情報発信サイト(HP)に加え、SNSなどのPRツールを活用した情報発信を強化する。

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)体験型等サービスの確立 プロジェクト会議開催 ・地域資源の整理 ・事業者の洗い出し ・今後の展開	・サービスの選定 ・モニタリング	・コンテンツの検証 ・参画事業者の発掘 ・事業者間連携の検討		
	(2)事業PR活動 HPリニューアル	新たなPRツール制作、運用	プロモーション活動の実施	改善	
	情報発信				
事業費	PJ会議費 184千円	モニタリング調査委託料 300千円	PR活動費 300千円	PR活動費 300千円	PR活動費 300千円
	PRツール作成費 1,823千円				
	合計 2,007千円	合計 300千円	合計 300千円	合計 300千円	合計 300千円
財源	【県連合会補助金】 商工会独自戦略実現化事業費補助金 125千円	【県連合会補助金】 商工会独自戦略実現化事業費補助金 125千円	【県連合会補助金】 商工会独自戦略実現化事業費補助金 215千円	自主財源 300千円	自主財源 300千円
	伴走型小規模事業者支援推進事業費補助金 1,823千円	自主財源 175千円	自主財源 85千円		
	自主財源 59千円				
目標	参画事業者数(累計) 4 /3事業者	参画事業者数(累計) 7 /5事業者 HP等による情報発信 30 /3回	参画事業者数(累計) 7事業者 HP等による情報発信 5回	参画事業者数(累計) 9事業者 HP等による情報発信 7回	参画事業者数(累計) 11事業者 HP等による情報発信 9回

■前年度実績と今後の計画

- (1)体験型等サービスの確立
- 秋田大学の「地域連携推進事業」を活用し、「食×農×観」をテーマとした体験型サービスの開発に向けたモニタリング調査を実施した。調査を通じ、外部かつ若者ならではの視点から、地域内の7つの体験メニューを基にコンテンツ候補として取りまとめた。
- 今後は、これらのコンテンツをさらにブラッシュアップし、プロモーション活動を通じて、さらなる魅力の向上を図る。
- (2)事業PR活動
- 「食」と「農」を軸とした事業者の販路拡大と誘客促進を図るため、本会ホームページ内にある情報発信サイト「大仙市の食の魅力サイト」や「大仙市商工会公式LINE」による情報発信を強化した。
- 今後は、関係団体や各事業者のホームページやSNSとの相互リンクなど、さらなる連携の強化に努める。



モニタリング調査の様子



大学生が作成したプロモーションツール

事業No.	イベントホームステイ普及事業	事業主体	大仙市観光物産協会
D-2	自宅提供者の拡大や宿泊手続きの改善を行うことにより、「大曲の花火」開催時の宿泊先不足を補い、滞在時間の延長や交流人口の拡大に繋げる。	記載担当	大仙市観光物産協会

■事業内容

- (1)民泊事業の推進
宿泊希望者数は増加傾向にあるが、自宅提供者数は低調である。民泊事業の認知拡大とともに住宅提供者の増加を図る。また、一部手数料徴収により事務費の捻出を検討しながら、自走化を目指す。
- (2)自走化に向けた斡旋手数料の徴収
自走化に向けた斡旋手数料徴収のため、協会で旅行業務取扱管理者確保及び旅行業登録を目指す。

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)民泊事業の推進				
	住宅提供者、宿泊希望者の募集・マッチング				
	(2)自走化に向けた斡旋手数料の徴収				
	旅行業務取扱管理者の確保・旅行業登録				
事業費	民泊事業諸費 154千円	民泊事業諸費 154千円	民泊事業諸費 154千円	民泊事業諸費 154千円	民泊事業諸費 154千円
財源	市委託料 154千円	市委託料 154千円	市委託料 154千円	市委託料 74千円	市委託料 54千円
目標	民泊利用者 33 /40人	民泊利用者 51 /60人	民泊利用者 70人	民泊利用者 80人	民泊利用者 100人

■前年度実績と今後の計画

- (1)民泊事業の推進
宿泊者数については、目標値の約8割となっている。宿泊希望者は増加傾向にある一方で、自宅提供者は固定化しており、新規の掘り起こしが課題となっている。新規自宅提供者の募集に向けてチラシ配布等の広報活動に注力したが、顕著な効果は見られなかった。一方で、口コミを通じて新たに自宅提供者が1軒加わるなど、一定の可能性も確認されている。なお、花火観覧会場周辺では自宅提供希望者が少ない状況は前年度と同様である。
今後の計画としては、新規自宅提供者の発掘に重点的に取り組むとともに、民泊の開業を検討する市民に対し、イベントホームステイを契機とした参入促進を図ることで、イベントホームステイの仕組みに依らない市内宿泊施設の増加にもつなげていく。さらに、イベント開催時における宿泊施設不足への対応として、公共施設や集会施設の活用について関係機関と連携しながら検討を進め、自宅の範囲拡大による宿泊受入数の増加および受入体制の強化を図る。
- (2)自走化に向けた斡旋手数料の徴収
今年度、旅行業登録を完了したことにより、自走化に向けた体制整備が一步前進した。これまで宿泊料金については自宅提供者が宿泊者から直接現金で徴収しており、協会として斡旋手数料の徴収は行っていなかったが、今後は適切な料金設定および手数料徴収の仕組みを構築する必要がある。そのため、宿泊料金の見直しとあわせて、決済方法の整備について検討を進める。宿泊ニーズは引き続き高い水準にあることから、一定の料金改定については受け入れられるものと見込まれる。令和10年度を見据え、持続可能な事業運営に向けた収益構造の確立を図る。

【令和7年度実績】自宅提供者 4軒
利用団体数 8団体
利用人数 51名
利用料金については自宅提供者が任意に設定。利用実績があった4軒は1名10,000円で実施した。

事業No.	はなび・アムを核としたにぎわい創出事業	事業主体	大仙市
D-3	はなび・アムにおいて、市民をはじめ来館者からの要望が多い、飲食やお土産購入が可能な環境を整えることで、大仙市の玄関口としてのにぎわい創出を図る。	記載担当	大仙市花火産業推進課 (花火伝統文化継承資料館)

■事業内容

- (1)利用者ニーズに合わせた環境整備
- 花火グッズ販売や飲食スペースを臨時に設置し、利用状況やアンケート調査を踏まえて今後の環境整備方針を決定し、実施に移す。
- (2)周辺の催しに合わせたイベント開催、周遊促進
- 周辺で開催される催しに合わせ、はなび・アムでもイベントを実施することで集客の相乗効果を図り、彩色千輪プロジェクトや大仙市観光物産協会と連携し、来館者の周辺施設への周遊も促す。また、館内や駐車場をイベントスペースとして提供することで賑わいを創出する。

■事業計画

	実績		計画		計画	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	
実施内容	(1)利用者ニーズに合わせた環境整備 飲食スペース臨時設置 花火グッズ販売、飲食スペース臨時設置 アンケート調査 方針検討 環境整備					
	(2)周辺の催しに合わせたイベント開催、周遊促進 ・イベント開催、周遊促進 ・イベントスペースの提供					
事業費	イベント開催 35千円	イベント開催 59千円	イベント開催 50千円	イベント開催 100千円	イベント開催 開館10周年イベント 500千円	
財源	市一般財源 35千円	市一般財源 59千円	市一般財源 50千円	市一般財源 100千円	市一般財源 500千円	
目標	イベント参加者数 623 /600人	イベント参加者数 1,360 /700人	イベント参加者数 1,000人	イベント参加者数 1,200人	イベント参加者数 1,400人	

■前年度実績と今後の計画

- (1)利用者ニーズに合わせた環境整備
- 大仙市観光物産協会と連携したお土産品のお試し事業として、花火マグネット等のガチャガチャを設置したほか、インバウンド観光客の増加が見込まれることから、4カ国語に対応したはなび・アム多言語案内ツールを作成した。令和8年度以降は、全国花火競技大会100回記念大会に向けた館内の環境整備を検討する。
- (2)周辺の催しに合わせたイベント開催、周遊促進
- 市内4中学校の美術部と連携した階段アートを制作したほか、秋の稔りフェアに合わせて、はなび・アムフェアを開催し、利用団体の活動紹介や展示、パフォーマンス披露などを行った。令和8年度は階段アートなどの事業を継続するとともに、新規事業として花火通り商店街七夕花火に合わせたはなび・アムの夜間特別開館を実施することで、はなび・アム周辺の賑わい創出と周遊促進につなげる。



階段アート制作



はなび・アムフェア 作品展示



昭和の「大曲の花火」映像上映会



花火模様の草木染め

事業No.	花火製造工程自動化・省力化事業	事業主体	株式会社花火創造企業
D-4	新たな自動化や省力化に繋がる装置を開発・販売し、今後予想される慢性的な人手不足の解消及び装置販売による市内企業収益の拡大を図る。	記載担当	株式会社花火創造企業

■事業内容

- (1)新たな装置の開発
 工程自動化や省力化に繋がる新たな装置を開発・販売し、今後予想される慢性的な人手不足の解消及び装置販売による市内企業収益の拡大を図る。
- (2)自動玉貼り装置の販売
 すでに商品化している自動玉貼り装置（FB-150A）を全国の花火業者に向け販売する。

■事業計画

	実績	実績	計画	計画	計画		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
実施内容	(1)新たな装置の開発						
	7号玉用自動玉貼り装置部品開発 → 配合工程検討 → 配合工程設計 → 販売 → 仕込み工程検討 →						
	(2)自動玉貼り装置の販売						
	販売 →						
事業費				開発費	3,000千円		
財源				自主財源	2,000千円		
				補助金	1,000千円		
目標	玉貼り装置販売数	7	玉貼り装置販売数	4台	玉貼り装置販売数	5台	
		/5台			玉貼り装置販売数	5台	
				配合装置	製品化	配合装置販売数	2台

■前年度実績と今後の計画

- (1)新たな装置の開発
 現状の自動玉貼り装置は2号玉～5号玉までに対応しているが、多くの花火業者より大玉までを貼れる機械の要望があった。現在既存の装置を改良するだけで7号玉まで貼れる装置の開発をおこなっており令和8年度中には完成予定ある。配合工程の機械化については、完全な自動化には多くの課題が伴うため、今後は慎重に検討を進めていきたい
- (2)自動玉貼り装置の販売
 令和7年度については販売数は0台であった。価格的にも安価ではないため各社補助金に頼っているのが現状で、採択の結果やタイミングに大きく影響されやすい。令和8年度については4台（静岡県1台、福島県1台、秋田県2台）の導入が確定している。



技術指導の様子

■重要業績評価指標 K P I の状況

花火関連SNSフォロワー数

「大曲の花火」実行委員会、花火会社、はなび・アム、大曲花火倶楽部等の花火関連団体が運営するFacebook、Instagram、X、YoutubeなどのSNSフォロワー数の合計

	基準値 R5	R6	R7	R8	R9	目標値 R10
数値[人]	31,974	37,573	46,580			75,000
達成率[%]	0	13.0	33.9			100

※当初設定した目標値45,000人をR7で達成したため、目標値を上方修正済

外国人市内宿泊者数

市内宿泊施設に宿泊した外国人客の合計

	基準値 R5	R6	R7	R8	R9	目標値 R10
数値[人/年]	2,139	2,318	5,157			7,000
達成率[%]	0	3.7	62.1			100

※当初設定した目標値3,500人をR7で達成したため、目標値を上方修正済

市内花火会社煙火売上額

市内花火会社の煙火売上額の合計

	基準値 R5	R6	R7	R8	R9	目標値 R10
数値[億円/年]	12.2	15.2	16.3			19.2
達成率[%]	0	42.9	58.6			100

平常時と「大曲の花火」開催時の滞在人口比較

大曲駅前半径500m以内の地域人口と「大曲の花火」（春夏秋）開催時の滞在人口の比較

	基準値 R5	R6	R7	R8	R9	目標値 R10
数値[倍]	10.3	10.9	11.1			13.3
達成率[%]	0	20.0	26.7			100